

○事業所インタビュー（相談支援事業所）まとめ

①職員の過不足について

・「大変不足している」「やや不足している」と回答。

要因としては、「相談件数が増えている」と回答。

※R2.3末時点（者：499件、児：248件）⇒R5.3末時点（者：592件（+93件）、児：322件（+74件））

・計画相談件数のおお、障がい児者ともにサービス利用者が相当増えているが、市内の計画相談員の人数はそれほど増えていないことは課題。

・抱える件数が多くなればなるほど事務も増えてくる。どの事業所も順番待ちになっており、すぐにサービスが利用できないこともある。

・一件あたりの時間がかかる相談が増えている。

・離職があり、その後補充として新しく加入した職員は対応のスキルがまだ不十分。

②職員の定着・育成について

【職員の定着・育成のためにしている取り組み】

「外部の研修への金銭的な参加支援」、「外部の研修への休暇取得の支援」、「給与面での改善」、「法人内での職員研修機会の充実」、「職員間の交流や意思疎通などの改善（風通しのよい職場づくり）」、「職場環境の改善等への職員意見の取入れ」、「職員のメンタルケアなどの充実」、「資格取得のための金銭的な支援」など。

【職員の定着・育成に関する課題】

「職員募集をしても応募が少ない（内定しても辞退が多い）」、「職員確保にかかる支援があればありがたい」、「相談支援専門員養成に伴う、初任者研修の増加」など。

③よく寄せられる相談内容と課題について

【就労系のサービス利用】

・就労意欲が高まっているのか、就労移行支援、就労継続支援B型の利用が増えている。

・就労系の事業所が増えている。

【児童のサービスについて】

・放課後等デイサービスの利用が増えている（ただし、定員がいっぱい、職員不足等で受け入れが難しい）。

・不登校などの相談も増えている。

【その他】

・計画相談員の不足に伴い、サービス利用まで待ち時間が発生している。

・送迎付の事業所（特に生活介護）が少ない（送迎の為に親が仕事を継続できない）。

・居場所が欲しい（日中活動終了後の活動場所がない）。

・ひきこもりの方、8050問題（80代の親が50代の子を支援する）世帯の相談。

・親亡き後の生活。

・精神科デイケアが少ない。

・特に重度な方のグループホーム、短期入所が少ない。

・移動支援が利用できない（事業所不足、事業所の職員不足）。

④他機関との連携について

【主な連携先】

- ・ 権利擁護支援センター、地域包括支援センター、就業・生活支援センター、健康福祉事務所、市内事業所、発達障がい者支援センター、こども家庭・保健センター、ケアマネジャー、学校関係、
- ※他機関との連携は進んでいると感じているが、福祉サービス事業所は、事業所ごとの思い・考え方によっては連携が阻まれる場合がある。

⑤新型コロナウイルス感染症における対応

- ・ 学校がコロナに伴い、休校になったことに伴い不登校になったという相談があった。
- ・ いつも利用している短期入所先がコロナで利用できなくなって困った、自宅での過ごし方についての相談があった。
- ・ 在宅ワークを希望される相談が増えた。
- ・ 家族との距離が近くなったことにより、家族間のトラブルが増えた。
- ・ 在宅ワークで他に家族がいるため、どのように過ごすか、家族間の人間関係について相談があった
- ・ 新しいサービス利用や、不定期利用の事業所への通所が遠のいた。

⑥業務負担軽減のために取り組んでいること（ICT化など）

- ・ 遠方の病院でのカンファレンスでは、オンラインを活用している。※移動時間が短縮される
- ・ タブレットを活用し、訪問先でプランを作成している。
- ・ 委託相談（基幹相談・一般相談）では、クラウド上でデータ共有やチャット機能を活用している。
- ・ 業務内容によっては在宅ワークもできるようにもなった。

⑦市に支援してほしいこと

- ・ 対応困難なケースについては、1事業所の問題とせず、市の担当者にもっと関わって欲しい。どうすればいいのか手立てが見つからない方への対応なども含め、相談員が心身ともに疲弊してきている状況にあります。
- ・ いつもケースに応じて個別の相談に乗っていただき、一緒に悩んでいただき感謝しています。
- ・ 計画相談待機者問題の解消改善について、協議できればと考えている。